

「幻の詩人」とも言われるサミュエル・ウルマンの詩「青春」を座右の銘としている庄司社長。詩の中で“青春とは……、意志がいかに強いか、想像力にどれほど長けているか、感情がどれくらい豊かであるか”と謳われている青春そのものを、75歳になられた今まさに体現して、私たちにを見せてくれているような気がした。少々早口に、製品開発のプロセスを熱く語る勢いに圧倒されっぱなしの2時間でした。



代表取締役社長

庄司 勝治
Shoji Katuji

短い一生、自立してやっていこうと決心したのは当時の一般的な定年のとし57歳の時でした。決心すると不思議なもので、自分の意志とは違うところで、周りの環境が不思議に整っていきます。

退職金をベースに会社を起し、バブル期には年商1億を売り上げるまでになったのですが、所詮うちみみたいな零細企業は三次、四次の下請けになりますから、景気が悪くなるとパタッと仕事がなくなってしまいます。

これでは、将来どうしようもない。オンリーワンの仕事がないれば駄目だということで、平成7年から回転装置の自動締り機構の開発をスタート、4年後の平成11年には東京ビックサイトへの出展を果たしました。

これは大変なことを 発見してしまった！

東北大を卒業後、歯車一筋で働いてやはり夢は新製品の開発でした。ところが独立当初はまず飯を食うことが優先でしたから、なかなか手がかかった。ある意味、不景気のお陰でこのセルフロック機構の発見ができたとも言えるのです。

世紀の発見や発明も、偶発的なことから思わぬ結果を得て始まると思っていたのですが、発見力というか偶発力というものが本当にあるんだな—という印象です。しかし、それもこんな狭い世界にずっと入ってやっていたから発見できたので、素地のないところでは発見できなかったと思うのです。正直言って、大変なことを発見しちゃった、との思いでした。

出世払いで国際特許を出願

揺動運動で回転軸をまわす機構自体は公知の事実なのですが、そこにセルフロック機能を発見したことが大変なことなのです。ブレーキなしで回転を止めるということは、伝導装置の小型化、省力化、省エネはもちろんのこと、メンテナンスフリーをもたらす画期的な事柄なのです。

友人の協力を得て、なぜセルフロックが効くのかということ論文にし、USA、EU、台湾、中国、韓国に特許を出願いたしました。出願費用の約200万円は、毎月10万円の割賦で、特許事務所が引き受けてくれました。言ってみれば出世払いですが、我々の年代には、まだこうして意気を感じて協力してくださる方達が大勢いるんです。

体力と気力は反比例。 いよいよこれからです

独立してから早18年、60代後半から製品開発に取り組み、新しい発見をすることができました。平成11年から14年まで、連続して藤沢市新製品開発賞、奨励賞を受賞、更に、「かながわビジネスオーディション2002」に出品した「電動工具で駆動する新電動ウインチ」で、優秀賞に次ぐ奨励賞を受賞することもできました。

いま、OEMの話もいくつか決まり、量産する際のモジュール化を考えて、共通部品の設計に取り組んでいます。机の上だけが仕事場ではありませんので、電車の中でも、寝床の中でも、いつもいつも考えています。

私、実は社交ダンスをやるんです。かつては県の競技会でワルツで優勝したこともあるんですよ。やはり身体を動かさないと脳の働きも良くならない。そして社交ダンスは、陰で支えてくれている家内との共通な趣味の時間でもあるんです。

有限会社 庄司歯車エンジニアリングの概要

所在地 藤沢市遠藤3215

Tel. 0466-87-1310 Fax. 0466-88-1772

事業内容 ●セルフロック機能付各種歯車装置の設計・製作・販売